



「魅力ある人を育て

新しい価値を創造し続けるまち大槌」の実現に向けて

令和5年度 大槌町総合計画評価委員会

日時：令和5年7月21日（金）午後3時～

場所：大槌町役場 大会議室

令和4年度大槌町総合計画 実施状況について

- 1.はじめに
- 2.令和4年度の取り組みについて
- 3.総合計画目標指標の進捗について
- 4.令和4年度の主要事業について

1. はじめに

- ①第9次大槌町総合計画の趣旨・体系
- ②まちづくりの基本理念・基本方針
- ③まちづくりの基本理念・基本方針の体系
- ④総合計画の推進体制・PDCAサイクル

①第9次大槌町総合計画の趣旨・体系

町の総合的な指針

復興計画の後継

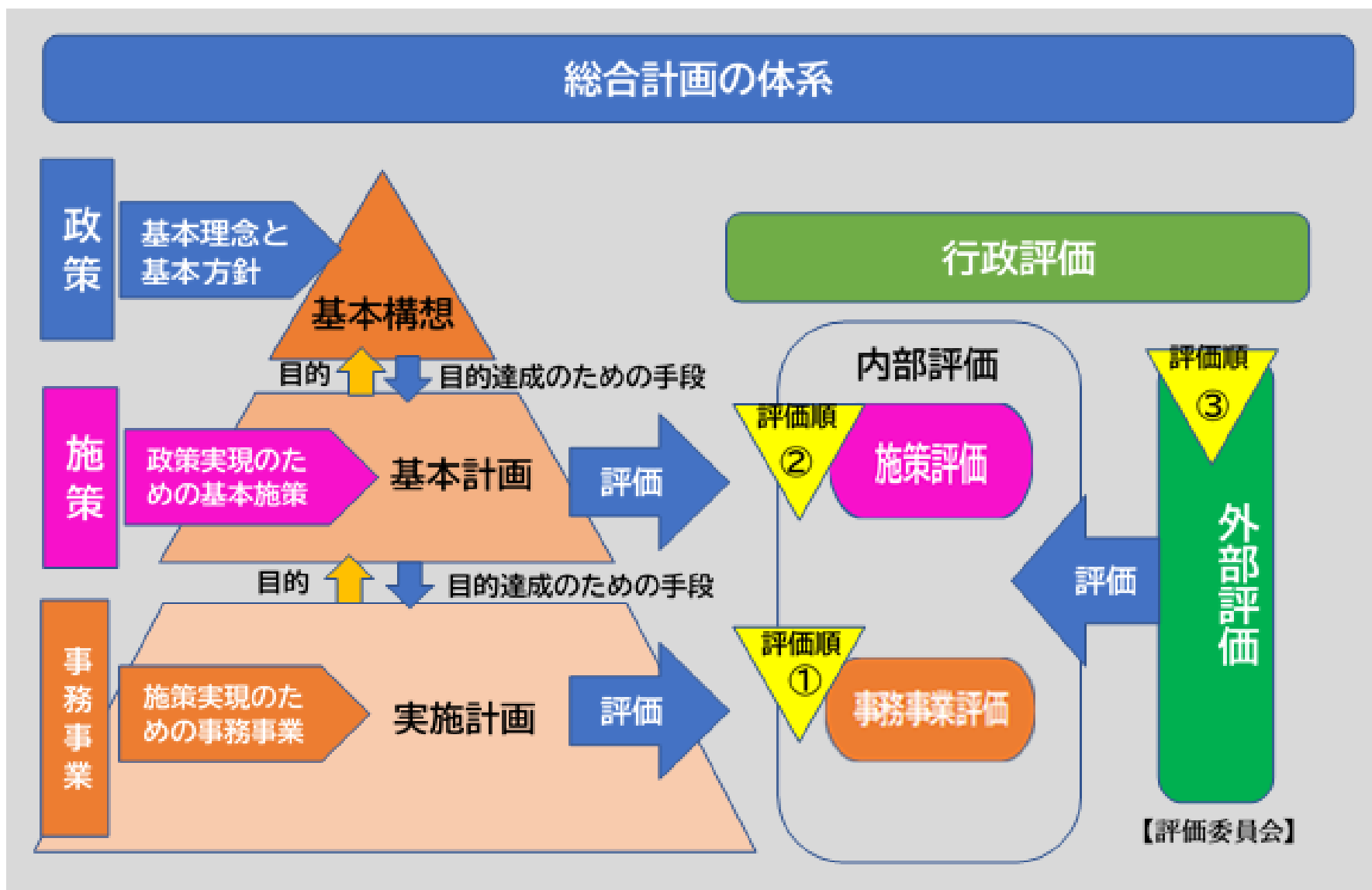
町民と行政の協働

持続可能なまちづくり

大槌町地方創生総合戦略



①第9次大槌町総合計画の趣旨・体系



②まちづくりの基本理念・基本方針の体系

基 本 理 念

「魅力ある人を育て、新しい価値を創造し続けるまち大槌」

産業・観光

基本
方針

1

産業を振興し町民所得を向上させるまちづくり

健康・福祉

基本
方針

2

健康でぬくもりのあるまちづくり

教育・文化

基本
方針

3

学びがふるさとを育て
ふるさとが学びを育てるまちづくり

安全・快適

基本
方針

4

安全性と快適性を高めるまちづくり

地域振興・
行財政運営

基本
方針

5

将来を見据えた持続可能なまちづくり

震災復興

基本
方針

6

未来につなげる着実な復興まちづくり

②まちづくりの基本理念・基本方針の体系

基 本 理 念

「魅力ある人を育て、新しい価値を創造し続けるまち大槌」

基本計画

指標合計 48項目

産業・観光

基本方針 1

○産業を振興し町民所得を向上させるまちづくり

基本施策①

目標指標 [3項目]

おおつちの自然を活かし、継承する一次産業の実現

基本施策②

目標指標 [2項目]

働きやすく、骨太なおおつちの商工業の推進

基本施策③

目標指標 [1項目]

おおつちらしい観光物産戦略の展開

令和4年度 207事業

実施計画

基本施策実施計画

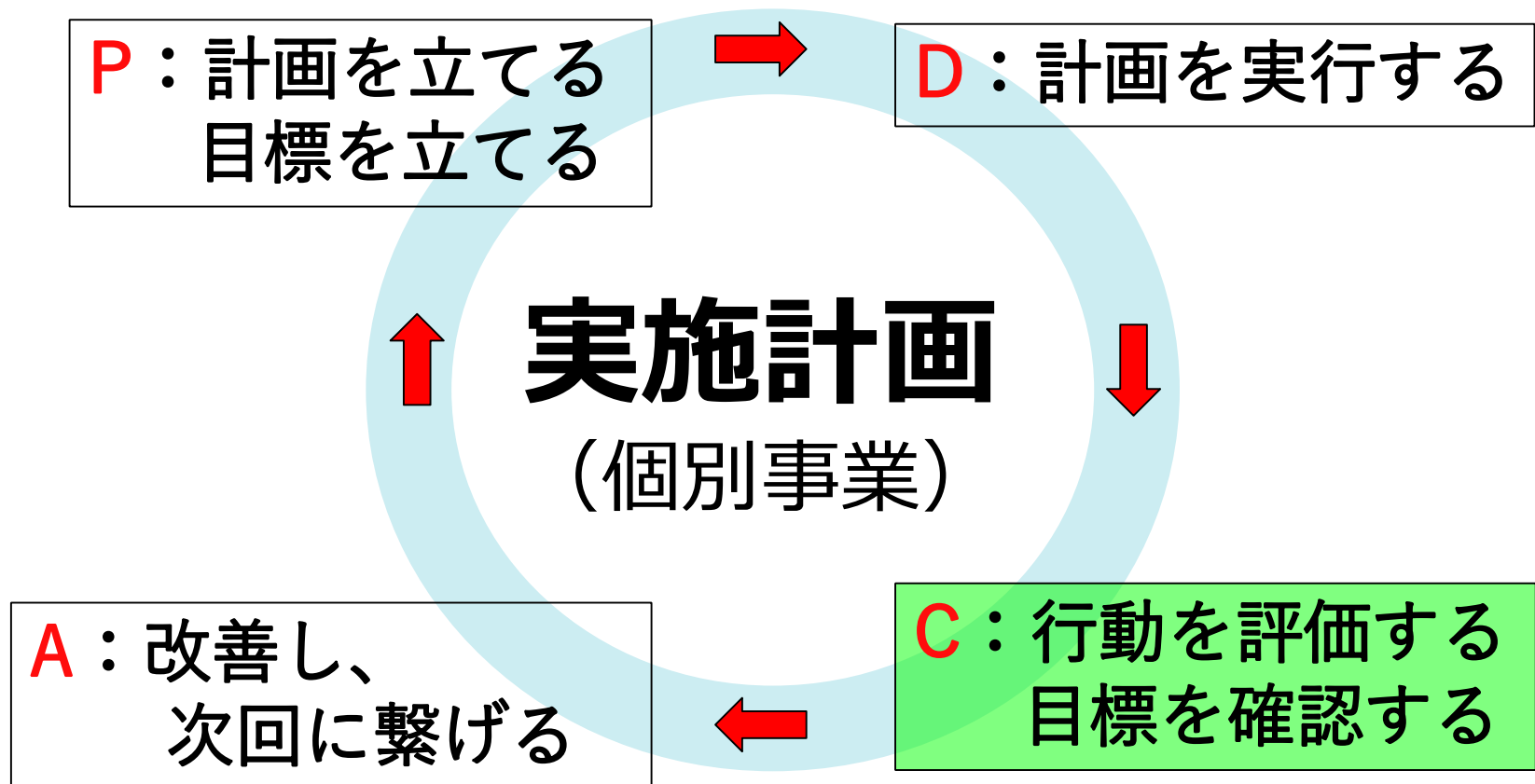
基本施策実施計画

基本施策実施計画

③総合計画の推進体制・PDCAサイクル

PDCAとは「**P**lan（計画）」「**D**o（実行）」「**C**heck（評価）」「**A**ction（改善）」の頭文字をとったものです。

業務の効率化を目指し、計画から改善までを「1つのサイクル」として行います。



2. 令和4年度の取り組みについて

新型コロナウイルス感染症緊急対応について

「地方創生臨時交付金」を活用した主な対応 【令和4年度 2 | 事業】

1. 感染拡大の防止

2. 雇用の維持と事業の継続

3. 経済活動の回復

4. 強靱な経済構造の構築

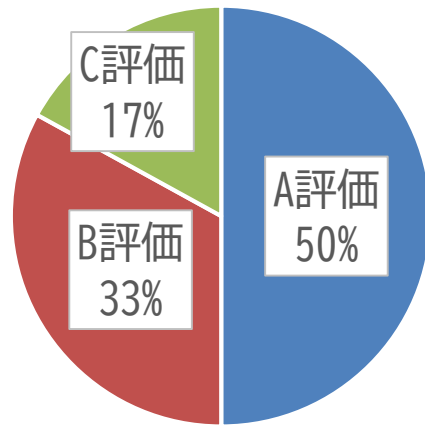
5. コロナ禍において原油価格・物価高騰等に直面する方々の負担軽減

3. 総合計画目標指標の進捗について

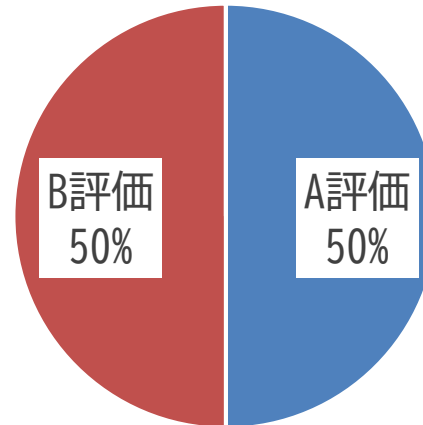
産業を振興し町民所得を向上させるまちづくり

産業・観光分野の指標の推移

令和3年度



令和4年度



【主な指標に関する考察】

②【大槌魚市場水揚額】については、近年、顕在化してきた海洋環境の変化を背景に、スルメイカや秋鮭の不漁が継続している一方、**サーモン養殖の水揚げでは一定の漁獲高を得ることができ、水揚額が前年度から約6千4百万円の増となり、CからBの評価としました。今後も生産の拡大と安定を目指し、サーモンを主軸とした地場産業への取り組みを推進してまいります。**

⑥【観光客入込数】については、新型コロナウイルス感染症が徐々に収束してきたことに伴い、それまで自粛していた各種イベントの開催及び海水浴場の開設等により、**観光客入込数は前年度の8万5千人から12万6千人に増となったため、BからAの評価としました。今後は、町の魅力を発信するための体験型ツーリズム事業等の観光施策に取り組んでまいります。**

指標	R3	R4	
①農地高活用転換面積	B	B	
②大槌魚市場水揚額	C	B	
③第一次産業新規就業者数	A	B	
④一人当たりの市町民所得の県内順位	A	A	
⑤釜石・大槌地域への新卒者就職率	A	A	
⑥観光客入込数	B	A	
合 計	A	3	3
	B	2	3
	C	1	0

▶ A評価…達成度が80%以上

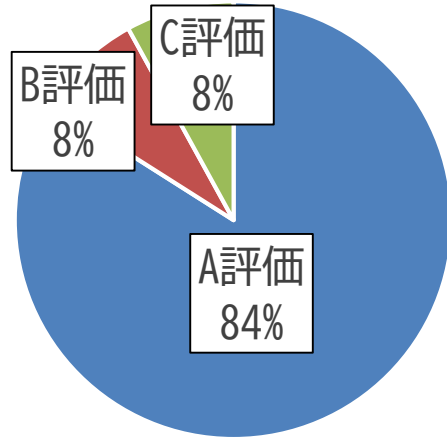
▶ B評価…達成度が50%～79%以下

▶ C評価…達成度が49%以下

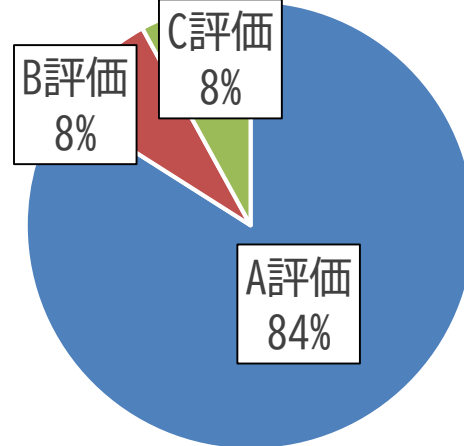
※達成度は、目標値を基準とした。

健康・福祉分野の指標の推移

令和3年度



令和4年度



【主な指標に関する考察】

④【児童数(11歳以下)】については、813人であり、目標値である938人を80%以上達成しているためA評価としています。その数は減少傾向にあるため、今後の人口減少を見据えた取り組みを推進してまいります。

⑤【待機児童数】については、民間保育所等が保育士等の確保に要する経費の補助などを行い、前年度に引き続き待機児童数0を達成し、A評価としました。国の施策を活用しつつ、施設と協力しながら保育環境の充実を図ってきた成果であると捉えております。

⑨【認知症サポーターの育成数】については、認知症を理解し見守る応援者を養成する講座を大槌学園や吉里吉里小学校等で開催し、前年度の2,464人から2,553人に増となり、A評価としました。認知症相談件数は増加傾向にあるため、健康寿命の延伸に向けた取り組みを推進してまいります。

指標	R3	R4
①自治会・町内会等の組織数	A	A
②民生委員・児童委員充足率	A	A
③ボランティア登録者数	B	B
④児童数(11歳以下)	A	A
⑤待機児童数(4月現在)	A	A
⑥標準化死亡比(総死亡)	A	A
⑦要介護2以上の認定率(5年平均)	A	A
⑧大槌町高齢者等見守りネットワーク協定締結事業者数	A	A
⑨認知症サポーターの育成数	A	A
⑩施設入所者数	A	A
⑪施設利用者の一般就労移行者数(人/年)	C	C
⑫休日・夜間救急診療体制対応日数	A	A
⑬国民健康保険加入者一人当たり医療費	A	A
合 計	A	II
	B	I
	C	I

▶ A評価…達成度が80%以上

▶ B評価…達成度が50%～79%以下

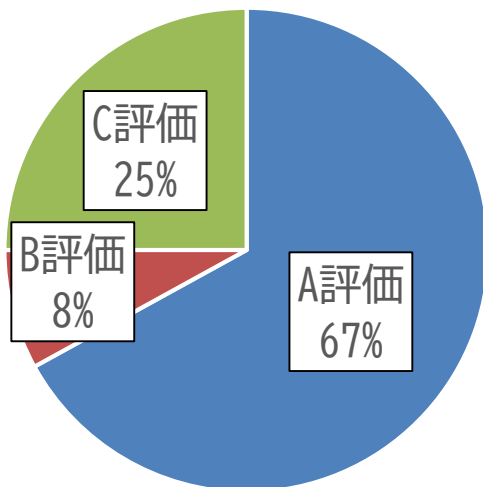
▶ C評価…達成度が49%以下

※達成度は、目標値を基準とした。

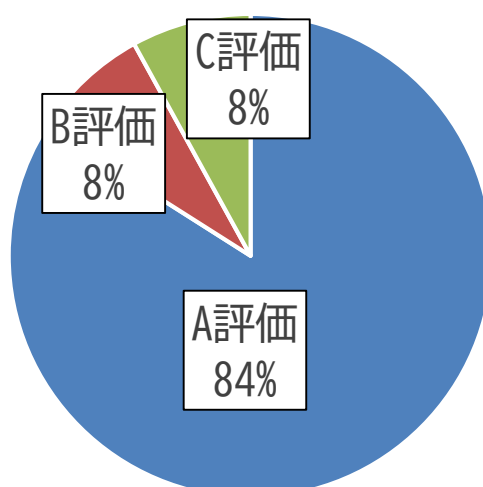
学びがふるさとを育て ふるさとが学びを育てるまちづくり

教育・文化分社の指標の推移

令和3年度



令和4年度



【主な指標に関する考察】

②【公民館(分館)活動等事業参加数】

⑥【芸術・文化財事業参加者】

令和4年度は各種イベントが再開されたことにより、各参加数を感染症発生前の水準に戻すことができました。芸術・文化財事業参加者数は、前年度の200人から1,699人に増、公民館活動等参加数は、前年度の892人から6,320人に増となり、CからAの評価としました。特に、町内会による指定管理を開始した安渡分館の利用者数は、コロナ禍前と比較し、4,373人の大幅な増となり、地域活動の充実における成功例であると捉えております。

指標	R3	R4
①自己肯定感を持った児童生徒の割合	A	A
②公民館(分館)活動等事業参加者数	C	A
③大槌高校の学級数	A	A
④学校ボランティアの受入数	C	C
⑤放課後学習施設登録児童数の割合	A	A
⑥芸術文化・文化財事業参加者数 (町民文化祭・郷土芸能祭)	C	A
⑦体育施設利用件数	B	B
⑧図書館来館者数	A	A
⑨図書貸出冊数	A	A
⑩学校における校舎内内外の安全点検の回数	A	A
⑪教員の職場環境に対する非ストレス度	A	A
⑫震災伝承展示物の更新	A	A
合 計	A	8
	B	1
	C	1

▶ A評価…達成度が80%以上

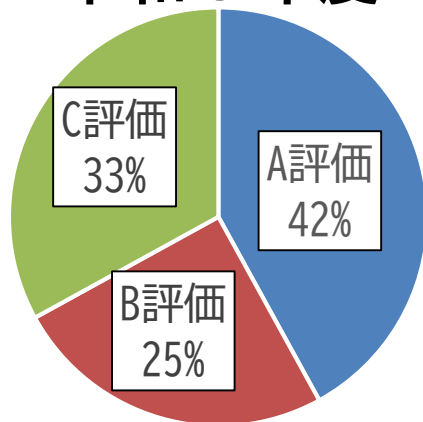
▶ B評価…達成度が50%～79%以下

▶ C評価…達成度が49%以下

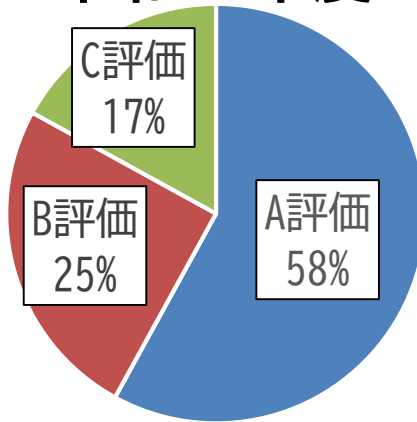
※達成度は、目標値を基準とした。

安全・快適分野の指標の推移

令和3年度



令和4年度



【主な指標に関する考察】

②【防災に関する研修実施数】については、岩手県が新たに公表した津波浸水想定に関する意見交換会実施や、防災ハザードマップ改定に係る住民説明会を実施したことにより、前年度の9回から45回に増となり、CからAの評価としました。町は日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震防災対策特別強化地域に指定されており、新たな避難施設の整備など、災害に強いまちづくりに取り組んでまいります。

⑤【訓練・講習会実施数】については、コロナ禍で自粛していた消防演習や消防操法大会が再開されたことにより、前年度の7回から363回に増となり、CからAの評価としました。町では消防団員の高齢化が課題となっているため、団員の確保をはじめ、消防防災体制の強化に取り組んでまいります。

指標	R3	R4	
①地区防災計画作成済組織数	B	B	
②防災に関する研修実施数	C	A	
③防災訓練実施数	B	B	
④消防団員数	A	A	
⑤訓練・講習会実施数	C	A	
⑥1人1日あたりのごみの排出量	B	B	
⑦町内の交通事故件数	C	C	
⑧大槌町インターネット施設加入率	A	A	
⑨水道管耐震化率	A	A	
⑩下水道水洗化率	A	A	
⑪道路舗装率	A	A	
⑫大槌駅乗車人数	C	C	
合 計	A	5	7
	B	3	3
	C	4	2

▶ A評価…達成度が80%以上

▶ B評価…達成度が50%～79%以下

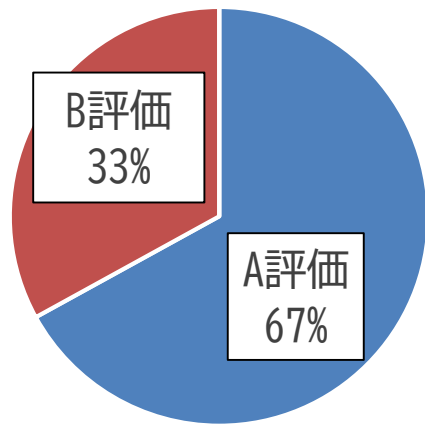
▶ C評価…達成度が49%以下

※達成度は、目標値を基準とした。

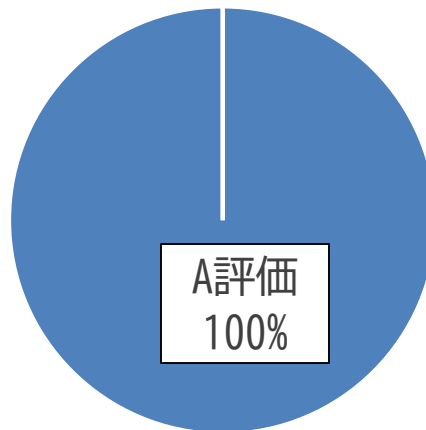
将来を見据えた持続可能なまちづくり

地域振興・行財政運営分野の指標の推移

令和3年度



令和4年度



指標	R3	R4	
①自治会・町内会等の組織数	A	A	
②UIターン総合相談窓口を活用した移住者数	<u>B</u>	<u>A</u>	
③地方自治法に基づく審議会等の女性比率	A	A	
④財政健全化判断比率の実質公債費比率	A	A	
⑤地方税の収納率	A	A	
⑥職員研修の実施回数	<u>B</u>	<u>A</u>	
合 計	A	4	6
	B	2	0
	C	0	0

【主な指標に関する考察】

②【UIターン総合相談窓口を活用した移住者数】については、前年度の移住者数19人から32人に増となり、BからAの評価としました。移住者32人のうち14人が地域おこし協力隊の着任によるものです。今後は、事業期間に期限のある“まちづくり人材”の定住に繋がる取り組みを推進してまいります。

⑥【職員研修の実施回数】については、前年度の5回から11回に増となり、BからAの評価としました。また、職員の業績評価と能力評価の両面から、能力と事務の効率性向上を目的として、人事評価制度を令和4年度から導入しました。職員研修については、既存の研修に加え、人事評価制度の評価結果を活用することにより、職員の適性を分析し、効果的なスキルアップや能力向上につながるよう研修計画の見直しを図ってまいります。

▶ A評価…達成度が80%以上

▶ B評価…達成度が50%～79%以下

▶ C評価…達成度が49%以下

※達成度は、目標値を基準とした。

4. 令和4年度の主要事業について

- ①大槌ジビエソーシャルプロジェクト
- ②大槌町地域産業イノベーション事業
- ③おおつちプロモーション事業
- ④ふるさと納税特産品贈呈事業
- ⑤大槌高校魅力化推進事業
- ⑥震災伝承プラットフォーム構築事業
- ⑦防災対策事業

①大槌ジビエソーシャルプロジェクト

産業振興課

① 大槌ジビエソーシャルプロジェクト

地方創生施策

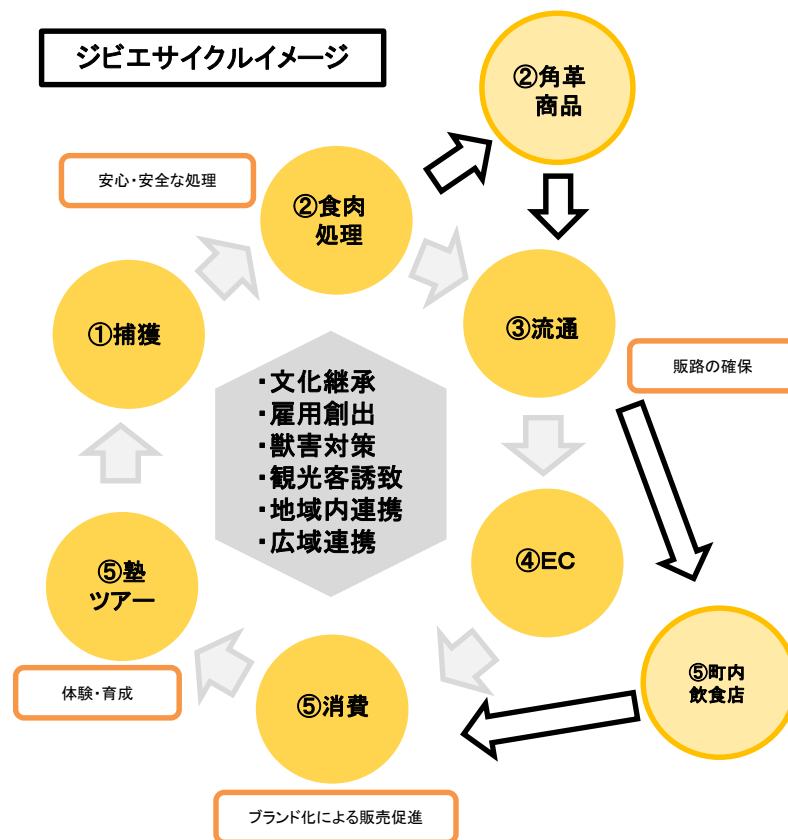
【概要】

(1)ジビエ基盤整備事業

町内において「捕獲」から「ハンター育成」までのサイクルを作り、持続可能なソーシャルビジネスの基盤を構築するとともに、ジビエ業界の好循環化に資する取り組みを行います。

(2)ジビエPR事業

ワークショップやジビエツーリズム等の多角展開・事業展開や、町内の取り扱い店舗と連携した観光客誘致及び交流人口拡大に資する取り組みを行います。



① 大槌ジビエソーシャルプロジェクト

地方創生施策

【令和4年度の実績・成果】

事業に係る交流人口

92,509人（うち観光客3,667人）

(1) ジビエサイクルに係る
関係人口 606人

(2) オンラインプラットフォーム
利用者数 78,200人

(3) PR事業の効果による
交流人口者数 13,703人



鹿肉試食会



鹿革キーホルダーワークショップ

① 大槌ジビエソーシャルプロジェクト

地方創生施策

【令和5年度の取り組み】

(1) ジビエサイクルの自走化

- ①野生鳥獣を扱う食肉事業主体者自ら、鹿・個体捕獲業務に有する時間と仕組みづくりに重点を置いた支援を実施。
- ②起業・自立する為の担い手育成総合的サポート（マーケティング、セールス、ブランディング等）を開始。
- ③商品開発に向けた試作品の検証、町一体のジビエブランディング実施。
- ④ジビエ塾の運営
- ⑤ジビエツーリズムの開催

(2) 取り組みのまとめ

「獣害をまちの財産に」をテーマに掲げた取り組みは、地域おこし協力隊をはじめとした、地域内外の人材との連携により、持続的なビジネスモデルが構築されました。

令和5年度からは、新たな加工施設が稼働したことで、生産規模の拡大と雇用の創出に寄与しております。

今後は、県内の取り扱い基準を定めた「岩手ジビエ」ブランドの構築に向けた取り組みを推進し、課題解決を通じた町のPRと関係・交流人口の拡大に取り組みます。



②大槌町地域産業イノベーション事業

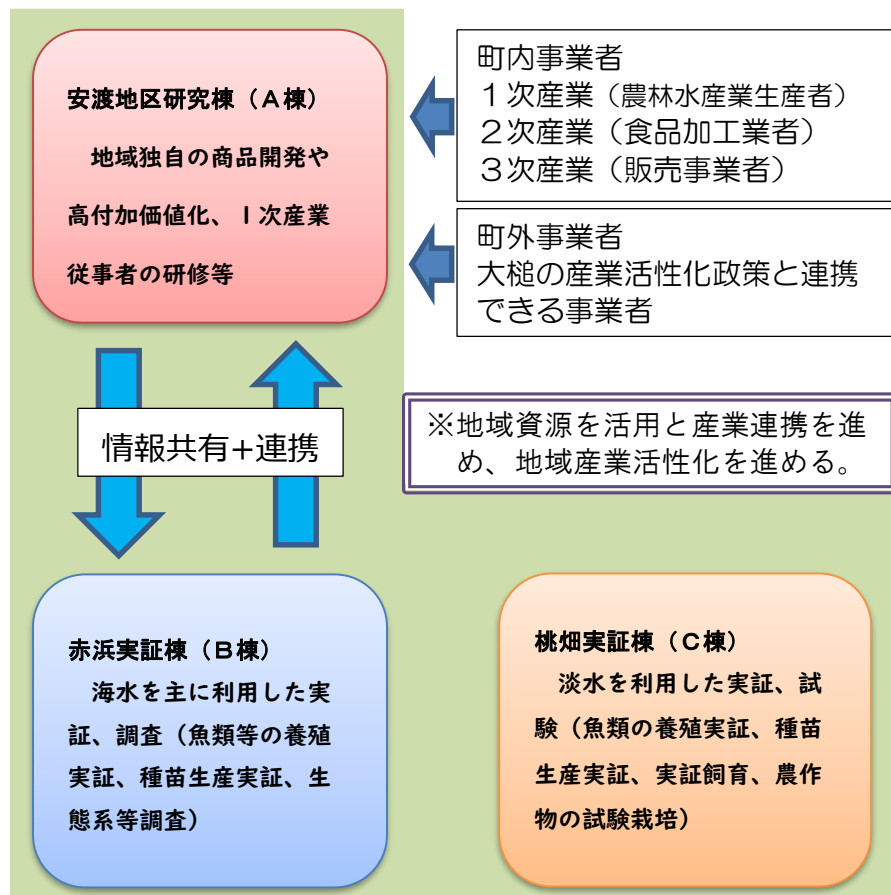
産業振興課

② 大槌町地域産業イノベーション事業

地方創生施策

【概要】

新産業創出のため、農林水産業生産物の養殖栽培実証を行い、新規種目や生産量の拡大を図ると共に、これら生産物を基に新たな加工品の開発や付加価値化を促進し、一次生産から二次加工販売までの一体的な産業の活性化を図ります。



② 大槌町地域産業イノベーション事業

地方創生施策

【令和4年度の実績・成果】

●安渡研究棟（A棟）

新規生産品の技術確立件数…3件
漁協及び農協新規組合員資格所得者数…8人
研究棟のべ利用者数…3,040人

●赤浜実証棟（B棟）

- ・海水を利用した実証、試験
- ・魚類の養殖実証
- ・ウニの蓄養実証

●桃畑実証棟（C棟）

- ・淡水を利用した実証、試験
- ・魚類の養殖実証
- ・種苗生産実証
- ・桃畑学園サーモンの出荷



A棟 安渡研究棟



C棟 桃畑実証棟



B棟 赤浜実証棟

② 大槌町地域産業イノベーション事業

地方創生施策

【令和5年度の取り組み】

(1) 取り組み状況

関係機関の尽力により、令和3年度よりギンザケ、トラウトサーモンの海面養殖が前倒しで事業化しています。

ジビエ事業についても拡大計画が進められており、今後も畜養ウニの実証研究や6次産業化など、一次産業従事者の取り組みを支援し、共に新たな産業の創出を推し進めます。

(2) 課題

今後は稚魚等の増産に向けた取り組み、民間企業や大学等との連携も進めます。



サーモン養殖の事業化が始まりました！

③おおつちプロモーション事業

産業振興課

③ おおつちプロモーション事業

地方創生施策

【概要】

当町とゆかりのある声優・俳優等とともに町PRアニメーションを制作いたします。同アニメーションや出演者を題材に、web物産販売へも誘導するオンラインイベント「おおつちアニメフェスタ」を実施します。また、エンターテインメントコンテンツを活用、町内商業者のデジタルトランスフォーメーション（DX）を支援します。

DXによるオンラインイベント配信は、コロナ禍による密集・密接を避けることができる上、場所や時間を超え「大槌町」をPR出来ることから、日本に留まらず世界に東日本大震災への支援の感謝と復興の状況を伝えることが出来ます。

また、当町を舞台の一つとして制作されたフジテレビのアニメ映画「岬のマヨイガ」をPRしつつ、町の魅力を国内外に発信します。

③ おおつちプロモーション事業

地方創生施策

【令和4年度の実績・成果】

1 コンテンツビジネス戦略事業部会調査会開催

- ・大槌町PRアニメーションのアイデア公募及びシナリオ制作
- ・大槌町ゆかりのアニメーション作品の応援・プロモーション
→『映画「岬のマヨイガ」を応援する会』、『大友啓史監督を勝手に応援する会』を関係機関公認のうえ設置。

2 オンラインアニメイベント

「おおつちアニメフェスタ2」YouTube開催

- ・大槌町及び岩手県ゆかりの声優、タレントによる聖地巡礼特集

3 台湾最大級アニメイベント

「第11回台北国際動漫節」への出展

4 デジタルトランスフォーメーション (DX)

③ おおつちプロモーション事業

地方創生施策

【令和4年度の実績・成果】

Ⅰ コンテンツビジネス戦略事業部会調査会開催

- (1) 部会とは
エンターテインメントコンテンツ（アニメーション、漫画、SNS等）を活用し、大槌町の活性化を図る産官学連携組織。
- (2) 構成団体
町内外50者（行政、商工団体、町内学校、研究機関、鉄道会社、宿泊施設、銀行、郵便局、全国の大学教授・実務家等）
- (3) 活動内容
大槌町ゆかりのアニメーション作品の応援・プロモーション、コンテンツライセンサーの相談窓口、観光交流経済に関する検討、意見公募、意見とりまとめ、情報収集、調査研究、教育普及活動
- (4) 令和4年度の実績
部会の作業チームである調査会を6回開催、三陸♥おおつちPR大使である大友啓史監督の劇場公開作品へプロモーション協力（SNSカウントダウン）、町内造形企業と共にフィギュア制作。

③ おおつちプロモーション事業

地方創生施策

【令和4年度の実績・成果】

2 オンラインアニメイベント

「おおつちアニメフェスタ2」YouTube開催

(1) おおつちアニメフェスタとは

町製作のアニメーション作品に加え、町ゆかりのアニメーション作品やそれらに携わる人物等を特集し、幅広い層へ町の魅力を発信するオリジナルバラエティ番組。



(2) 令和4年度の実績

三陸♥おおつちPR大使のはなわ氏、佐藤ひろ美氏のほか、人気声優の蒼井翔太氏、佐々木未来氏が出演。アニメに描かれた町のスポットや食を紹介。また、町内児童・生徒によるイラスト体験会も開催。

③ おおつちプロモーション事業

地方創生施策

【令和4年度の実績・成果】

3 台湾最大級アニメイベント 「第11回台北国際動漫節」への出展

(1) 第11回台北国際動漫節とは

入場者数455,000人、出展企業95社、出展ブース520ブース、台湾文化部や市政府、立法委員（日本における国会議員）や日本のアニメーターやアイドル、自治体Vtuber等が参加する。

(2) 令和4年度の実績

日本側からは16ステージ+8ブースが出展。当町はステージ及びブースにて出展。各々4,238人、276人が来場。台湾オリジナルフレット、クリアファイル、繁体字版「大槌カイ物語出航」上映、台湾メディアへのプレスリリースを実施。

③ おおつちプロモーション事業

地方創生施策



③ おおつちプロモーション事業

地方創生施策



③ おおつちプロモーション事業

地方創生施策

【令和4年度の実績・成果】

4 デジタルトランスフォーメーション（DX）

【令和4年度の実績】

- ・コンテンツビジネス戦略事業部会員の知的財産活用、大槌DXの個別相談（課題抽出、現状分析、アドバイス、導入支援）
- ・コンテンツプロデューサーまつもとあつし氏による部会SNS分析
 - ①蒼井翔太氏（大槌カイ役）の人気はTwitterのインプレッションに如実に表れている。
 - ②YouTubeでは全体としては45歳～54歳がボリュームゾーンで、YouTube自体の傾向とも合致。一方で18歳～24歳の女性が目立つのは蒼井翔太氏効果と言える。
 - ③Facebookは40代～50代男性がボリュームゾーン（Facebook全体の傾向とも一致）フォロワーは岩手県中心だが、横浜・仙台も。
 - ④Instagramは20代～30代がボリュームゾーンとなり、男性・女性がほぼ同数。台湾のフォロワー率が高いのが特徴的。

③ おおつちプロモーション事業

地方創生施策

【令和4年度の実績・成果】

- ・ ライセンスグッズ生産事業者のグッズ販売売上金額…145,440円
- ・ 当事業オンラインプラットフォーム利用者数…1,669人増
(SNSのフォロワー数・視聴者数) おおつちアニメフェスタ2:
Twitter:2,104,328回インプレッション
YouTube:158,886回インプレッション
- ・ コンテンツビジネス関係人口…196人
(ライセンス窓口利用者数+ライセンス窓口相談からの出願数+
知的財産活用セミナー受講者数+知的財産セミナー検定合格者数+
ライセンスグッズ生産事業者数)
- ・ オンラインイベント参加者数+オフライン(現実世界)イベント
来場者数…29,382人

③ おおつちプロモーション事業

地方創生施策

【令和5年度の取り組み】

(1) 取り組み状況

過年度の「大槌カイ物語」は主に女性ファンをターゲットとした作品であり、今年度は主に男性ファンを獲得する作品の制作を実施し、大槌ファンの拡大を図ります。

また、町内事業者及び町内の小・中・高校生から公募したアイデアを今年度のアニメ作品へも引き続き反映します。

当事業実施により、台湾著名漫画家を初め、台湾の漫画・アニメファンが当町Twitterフォロワー（約30%）となる等、海外アニメファンへの効果がみられていることから訴求力の高いアニメを活用し、新たな大槌ファンを更に獲得するべく、二次創作の承認を含め、多角的な魅力発信に取り組みます。



(2) 課題

物販については当町アニメ出演者との連携・アニメイベントへの出展等、より幅広い浸透と購買喚起を図ります。

④ふるさと納税特産品贈呈事業

産業振興課

④ ふるさと納税特産品贈呈事業

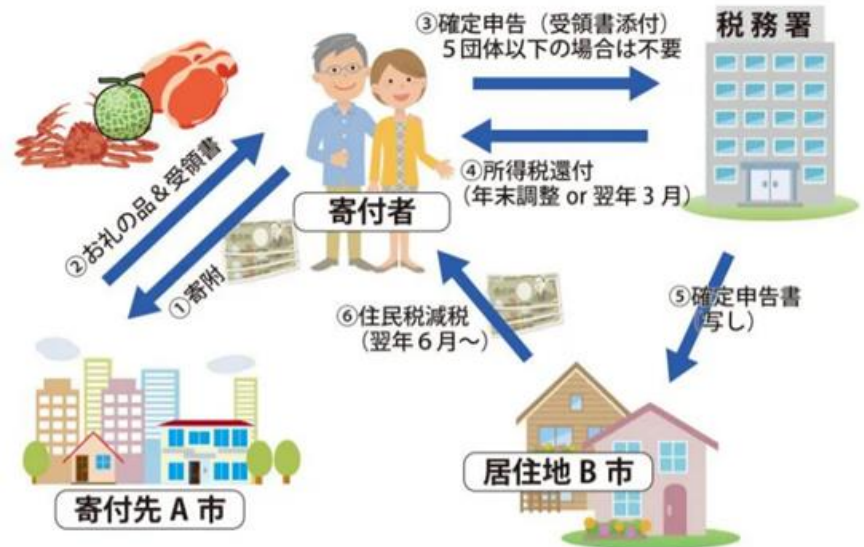
地域振興施策・
行財政運営

地方創生施策

【概要】

ふるさと納税推進会議では、実績報告、活動方針や寄附の使い道の決定をしております。

また、新しい特産品の掘り起し、事業者勉強会の開催、寄附者の税金控除等に必要な手続きの対応、寄附ポータルサイトの管理、事業者への発注指示等を大槌町観光交流協会へ委託しています。



○事業者数：**56社**

○返礼品数：**542品**

④ ふるさと納税特産品贈呈事業

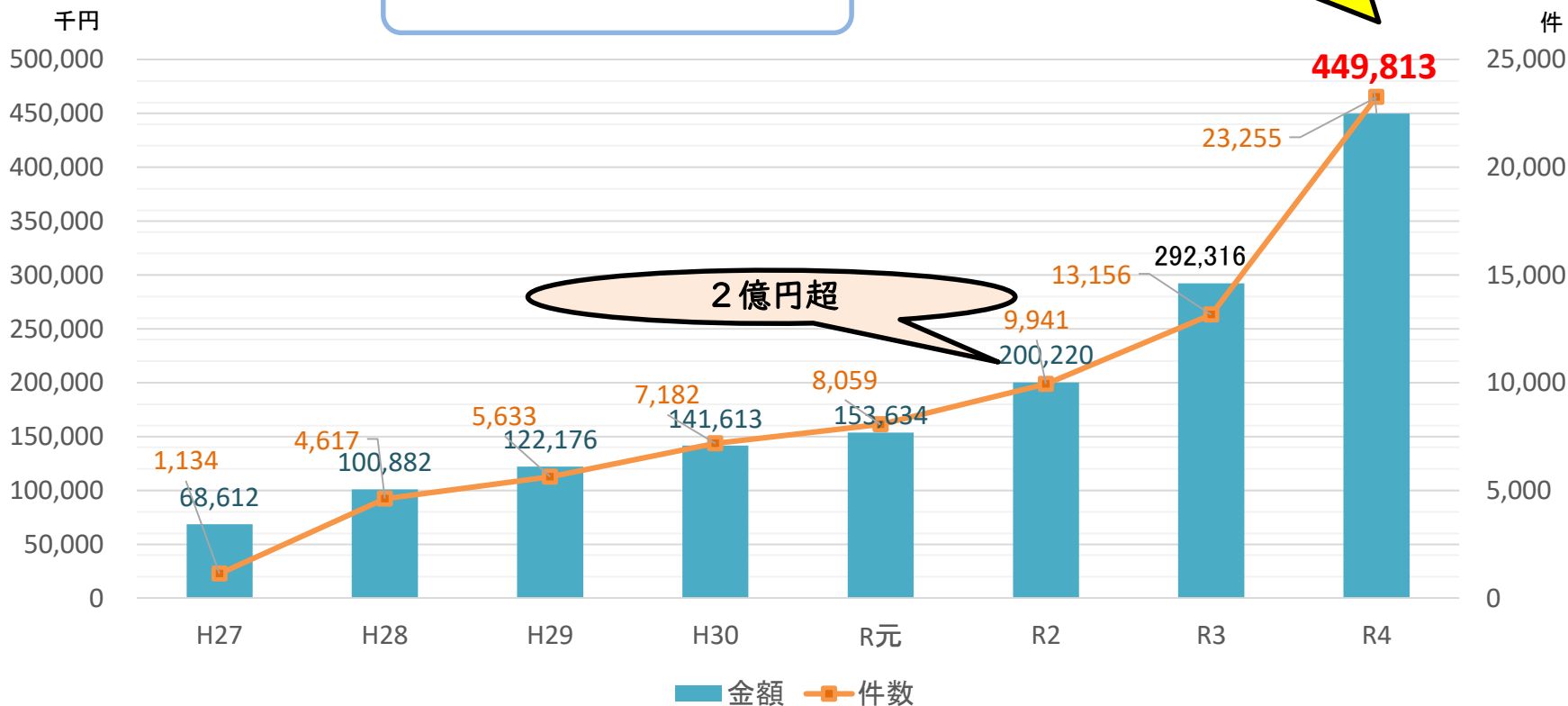
地域振興施策・
行財政運営

地方創生施策

【令和4年度の実績・成果】

寄附の件数と金額

寄附金額
約4.5億円



④ ふるさと納税特産品贈呈事業

地域振興施策・
行財政運営

地方創生施策

【令和5年度の取り組み】

ふるさと納税による町の自主財源確保は、様々な施策を実現するための有効な手段であるとともに、地域資源を最大限に活用した地域経済の活性化に有効な取り組みです。

大槌町の特産品と事業者のPRを併せ、大槌町の魅力を発信や返礼品の充実を図ります。

また、返礼品をきっかけに大槌町を知っていただき、交流人口の拡大が図れるよう、引き続き取り組んでまいります。



大槌町ふるさと納税 【公式】 ふるさとチョイスの返礼品

⑤大槌高校魅力化推進事業

学務課

⑤ 大槌高校魅力化推進事業

地方創生施策

【概要】最上位目標

大槌高校を魅力的な高校にして安定的に存続させ、
これからの大槌を担う人材を育成する。

(1) 目標達成のための取り組み

- ・ 県教委、大槌高校、町が協働して事業を推進します。
- ・ 大槌高校に専門の外部スタッフ(魅力化推進員)を複数名配置し、魅力化事業を推進します。
- ・ 生徒の全国募集を行い、町外からの生徒を受け入れ
高校及び地域の活性化を図ります。



(2) 見込まれる効果

- ・ 大槌高校ならではの特色を活かした魅力ある
カリキュラムづくりができる。
- ・ 町外、県外から大槌高校に入学する生徒が増える。
- ・ 町内の小中高校生がよい刺激を受け更に成長する。
- ・ 地域との関わり、発信などにより地域が活性化する。

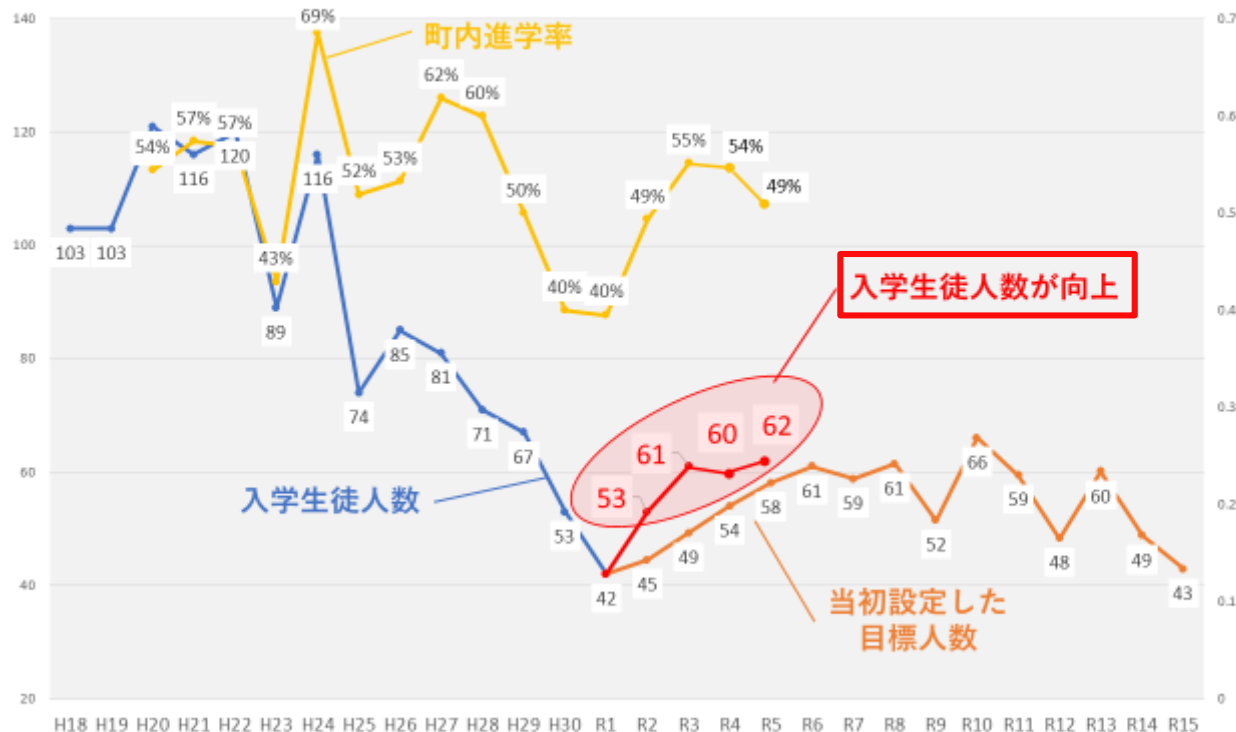


⑤ 大槌高校魅力化推進事業

地方創生施策

【令和4年度の実績・成果】

入学者人数と町内進学率の推移



主な成果

高校の存続

- 入学者数の増加
 - ・はま留学生 5 名入学

魅力向上のための協働

- 高校魅力化構想会議
 - ・特色あるカリキュラム
 - ・新しい学科

取組発信

- 「三陸みらい探究発表会」開催
 - ・町内から約160名、県内、県外から約70名が来場

⑤ 大槌高校魅力化推進事業

地方創生施策

【令和5年度の取り組み】

(1) 取り組み計画

- ・大槌高校魅力化構想会議等の開催
- ・地域の住民や町議会、東京大学大気海洋研究所、各学園、社会教育機関、地元企業等多様な主体による協働体制を組織

(11月18日(土)日本漂着物学会 参加)

- ・「はま留学生」の受入れ体制を整備 (オープンスクール参加希望8名)
- ・探究発表会等での発信
- ・文部科学省 普通科改革支援事業を受けて「普通科」から「地域探究科^(仮称)」へ学科を変更 (令和6年度)

(2) 課題

地方創生推進交付金が令和6年度で終了予定
今後の体制作りや財源の確保が必要



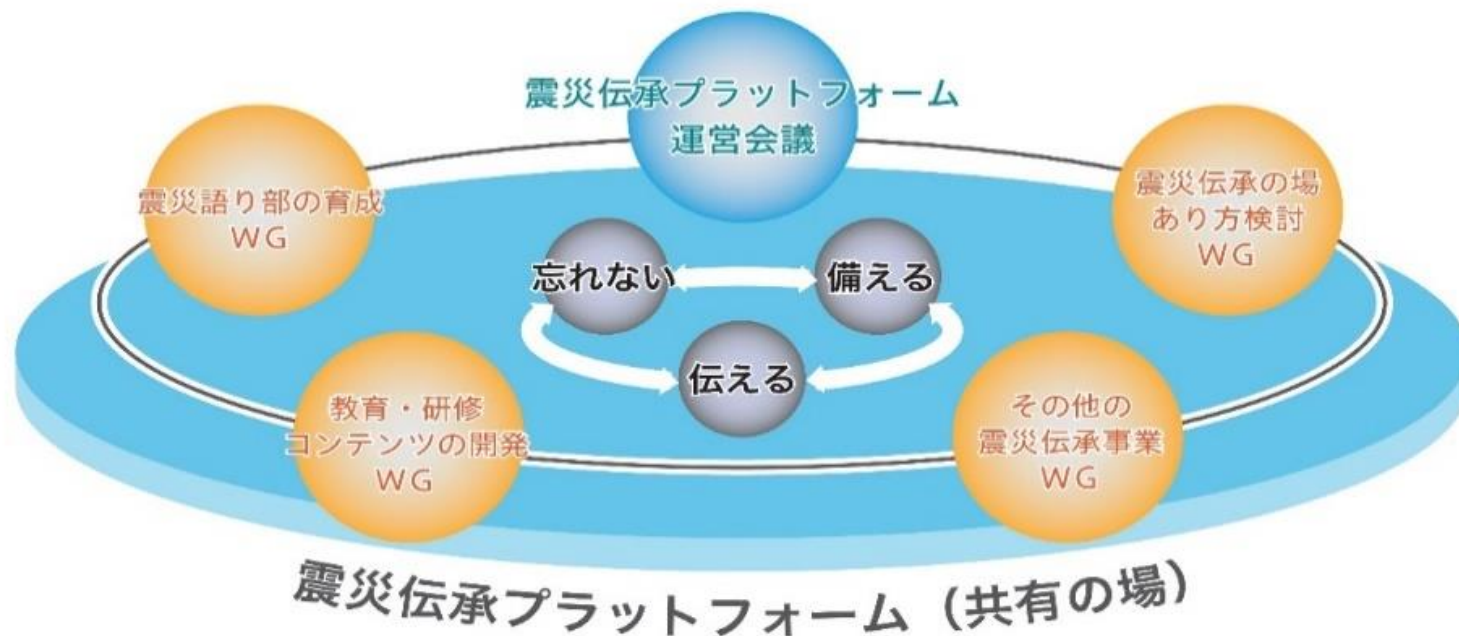
⑥震災伝承プラットフォーム構築事業

協働地域づくり推進課

⑥ 大槌町震災伝承プラットフォーム構築事業

地方創生施策

【概



町では、震災津波伝承の基本コンセプト、「忘れない」「伝える」「備える」に基づき、防災文化の醸成と、東日本大震災の教訓や経験などを後世に伝承していくため、行政と町民、震災伝承に志のある団体、企業等が**協働で伝承事業を推進**し、町民等の震災伝承への意識醸成を図り、伝承が町の文化となることを目指すもの。

⑥ 大槌町震災伝承プラットフォーム構築事業

語り部育成テキスト

【令和4年度の実績・成果】

- ・ 教育・研修旅行の受入者数…2,353人
- ・ 震災語り部ガイドの認定者数…0人
- ・ 教育・研修旅行コンテンツの開発数…1件
- ・ 語り部育成基礎講座
応用編テキストの作成。



大槌町震災伝承プラットフォーム運営会議の様子



誰もが語り部【応用編】モニタリング講座の様子



⑥ 大槌町震災伝承プラットフォーム構築事業

語り部育成の課題

- ・ 継続的に伝える仕組み
- ・ 伝える力の向上
- ・ 伝える事の弊害

⑥ 大槌町震災伝承プラットフォーム構築事業

大槌町震災遺構再現ARアプリケーション



夕方



昼

⑥ 大槌町震災伝承プラットフォーム構築事業

大槌町震災遺構再現ARアプリケーション



夕方



昼

⑥ 大槌町震災伝承プラットフォーム構築事業

地方創生施策

復興の記録写真等の展示会と思い出の写真返還会

○開催日程: 令和5年8月 13日(日)・14日(月)・15日(火)

○会場: 大槌町文化交流センター おしゃっち

【令和5年度の取り組み】

～復興への歩みの日々感謝を忘れない～



平成23年7月26日 自衛隊の感謝セミナー
大槌町民の復興活動に尽力した自衛隊に、多くの町民が感謝の意を伝えた。

～東日本大震災津波を後世に伝える～



旧役場庁舎の遺物・遺物写真パネル展示



旧役場庁舎の大時計と町章



屋上に繋がる鉄ばしご

大槌高校復興研究会 定点観測 (生徒が作成したパネル展示)



⑦防災対策事業

防災対策課

⑦ 防災対策事業

防災行政施策

【令和4年度の実績・成果】

○防災・減災対策事業

【地域住民との意見交換会の実施】

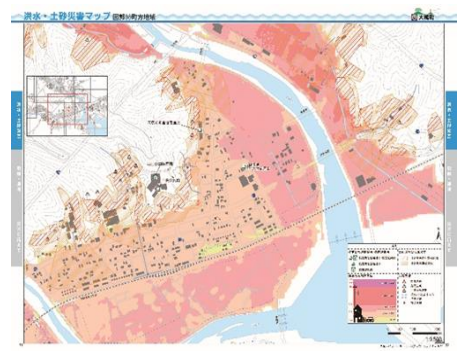
新たな津波浸水想定区域の公表に伴い、緊急避難場所についての意見交換会を実施しました。

【防災ハザードマップの作成】

新たなハザードマップを作成し、全戸配布した後に、各地区において住民説明会や防災学習を実施しました。

【防災サポーター研修会の実施】

外部講師をお招きし、研修会を開催しました。



⑦ 防災対策事業

防災行政施策

【令和5年度の取り組み】

(1) 防災行政無線設備更新工事

東日本大震災後に普及整備した、防災行政無線設備が設置から10年以上経過し、機器の耐用年数の経過や不具合が発生していることから、設備更新工事を実施します。

(2) 各種訓練の充実化

津波以外の自然災害を想定した訓練や職員向け本部運営部訓練など外部・内部問わず各種訓練の充実化を図ります。

- ①大槌町津波避難訓練
- ②風水害想定訓練
- ③本部運営部オペレーション訓練
- ④ペット同行避難訓練

